



学長メッセージ

四十年の 歩みと現在

愛知淑徳大学

学長 島田 修三

平成二十七年、愛知淑徳大学の母胎となる愛知淑徳学園が創立百十周年を迎え、大学もまた創立四十周年という節目の年を迎えました。昭和五十年、国文学科と英文学科の二学科からなる文学部（定員二百名）単独で出発し、四十年後の現在、大学に八学部十一学科、大学院に五研究科を擁する総合大学にまで発展しました。

「伝統は、たちどまらない」という大学運営のキーワードのもとに、シフトする時代社会の要請、次代を担う若い世代の意識を着実に視野に入れながら、学部の改善・改組に取り組み、新分野の学部・学科・専攻を意欲的に立ち上げてきました。一方、教育の基本として「違いを共に生きる」という理念を掲げ、学部・学科の編成やカリキュラムの上のみならず、トータルな学生生活を通して、学生が教育理念に広く触れ、育まれる機会や場を用意してきました。

その一例に、コミュニティ・

コラボレーションセンターを窓口とする国際交流、青少年育成、まちづくり、福祉貢献、地域環境整備などのボランティア活動が挙げられます。地域行政や企業との連携のほか、学生独自の企画による事業が活発に行われています。おそらく、自主的にボランティア活動に関わる学生総数は本学が全国トップではないかと思えます。

学園百十周年の記念事業として、本学は新たな学部の立ち上げに取り組んでおります。来年四月、星が丘キャンパスに開設予定のグローバル・コミュニケーション学部は全専門科目を英語で行い、卒業後、ただちに英語を活用できる人材育成を旨とします。さらに、太陽光発電パネルの増設、LED照明の導入など、あるべきエコキャンパスの実現の足がかりとなる事業を予定しております。

今後も新たな大学像を模索しながら改革・改善に臨んでまいります。お見守りください。